

珈琲動向 Vol 21

相場見通し

NY 先物相場 9 月限は、8 月は月初 165.10¢ で寄り付くと、3 日には投機筋の買いに 168.30¢ まで上伸しましたが、そのレベルで生産国の売りに頭を抑えられると、22 日の第一受渡通知日を控え、生産国の売りが活発に出され、収穫が順調に進んでいるブラジルの供給余剰期待から、ファンドも売り対応に転じ、支持レベルの 155¢ を下抜くと、ファンド中心に売りの動きが広がり、18 日には 145.05¢ まで値位置を下げました。

そのレベルで売りが途切れ、漸く実需筋の買いに支えられえると、値頃感から実需筋の買いが活発に入り、直ぐに 150¢ 台まで反発しました。

月末にかけては、期近中心限月が 12 月限に移る中、買い遅れた実需筋の買いに、一部のファンドのショートカバーも相俟って、再び 155¢ を目指し上値トライする動きを見せています。

目先の見通しとしましては、12 月限は 143.00¢ (1/11 安値) ~167.50¢ (8/3 高値) のレンジ相場と予想できます。

150¢ 割れのレベルでは値頃感から実需筋の買いが入りやすいとみられます。

一方、160¢ 付近まで上昇すれば、収穫が進むブラジル、ペルーといった生産国の売りが出されやすいレベルとみられるためです。

年末にかけては、毎年恒例のブラジルの干ばつ懸念が台頭すれば、再びファンドの買いに相場上昇の可能性も視野に入れておく必要があります。

LDN 先物相場 9 月限は、ベトナムロブスタを中心とした供給逼迫感を背景に、8 月は 2550~2700 ドルの高値圏で推移しました。

8 月に入り、期近中心限月は既に 11 月限に移っていますが、ベトナムの収穫開始の 11 月までにはまだ時間があることから、需給逼迫した状況が当面続く中、ファンドの買い対応は継続され、11 月限は現在の 2500 ドル前後の値位置から、2600~2700 ドル台を目指しテクニカル主導で値位置を切り上げていく展開を予想します。

産地情報

ブラジル：

天候関連では、前月に引き続き 8 月上旬から中旬にかけて目立った降雨はなかったが、8 月下旬に一部地域（私が訪問時も降雨が多発）にて降雨が観測されました。

地域によっては開花に必要な降雨量を超えていたものの、多くの地域では十分な降水量ではなく、纏まった開花には繋がらない可能性が高いです。

訪問地域では小さな蕾は確認できたとしても、開花には更なる降雨が必要なケースが主でした。

気温に関しては、降霜懸念に繋がるほどの冷え込みはなありませんでしたが、日ごとの寒暖

差が激しく、最高気温が 35°Cを超える日もあれば、最低気温が 15°Cを下回る日も確認されました。

その結果、南ミナス州の訪問農家では、暑さにより黄色く変色した葉と寒さにより白く変色した葉が混在している木が見受けられました。

9月以降は雨季に突入していく為、引き続き降雨量と気温に注視していきます。

(為替関連/その他)

ブラジル外務省は同月 9 日、日本とブラジルの両政府間で、観光などを目的とした 90 日以内の短期滞在ビザの相互免除措置の合意に至ったと発表。

2023 年 9 月 30 日以降適用開始となり、更に人的交流が容易となる為、2022 年の訪日ブラジル人観光客数は年間 1 万人以下に留まっていますが、コロナ禍前の水準（2019 年 年間 4.7 万人）付近までの回復が期待されます。

ブラジル政府は同月 11 日、国内の投資拡大や貧富の格差縮小に繋げるべく、約 51 兆円の大規模なインフラ投資計画（「成長加速プログラム（以下 PAC）」）を発表しました。

予算はブラジル政府：22%、国営企業：20%、民間企業：36%、国営銀行：22%を想定しており、ルーラ政権の任期中を中心に道路やエネルギー、住宅、公衆衛生を整備していく予定。

過去にも左派の労働者党政権下では、同様の PAC を公表したことがありますが、想定通り投資が進まず、本プログラムにおいても実現可能性を懸念する声もあります。

一方で本 PAC が軌道に乗れば国内投資の増加が期待され、リアル高へと繋がる可能性もある為、今後の動向には注意していきます。

コロンビア

先月は FNC（コロンビアコーヒー生産者連合会）の商業本部長交代人事についてご案内しましたが、8 月は Almacafe（FNC のロジスティクス関連を担う下部組織）に新 CEO が就任したとのニュースが報じられました。

新たに就任したのは Iván Andrés Galindo Hernández 氏。

前職は Amazon にて国際物流関連を担当しており、前職にて培った効率的な物流・倉庫保管等に関する知見を活かした、今後の FNC ひいてはコロンビア全体の物流改革に注目が集まります。

産地では、ミタカクロップの収穫は大詰めを迎え、現在約 90-95%まで完了。

先月に引き続き天候は良好で、Olam 社によると 23/24 メインクロップの生産量は、昨年比 17%増の 6.7-6.9 百万袋程度になる見込みです。

一方、品質に関しては気温の上昇によるブロッカの活動活発化に伴い、ブロッカの被害拡大が懸念されています。

今後の天候予測については IRI Columbia（米コロンビア大学・国際気象変動研究学）発表する最新情報によりますと、エルニーニョ現象の影響は少なくとも 2024 年 2-3 月頃まで続くとの見通しが示されています。

これより 8-9 月にかけて 23/24 ミタカクロップの開花時期を迎えるにあたり、極度な乾燥は開花不良・結実不良、ひいては生産量減少につながる懸念があるため今後の天候情報には要注意です。

グアテマラ

年末の 2023/24 クロップの収穫に向け、現在はコーヒーの木に実が付いていく時期ですが、グアテマラ各地では 2 回目の肥料の撒布が行われました。

現在は雨期ではあるものの、降水量は例年並みとなっており、コーヒーの木の生育には恵みの雨となっており、ポジティブ要因と言えます。

低地では、9 月後半から徐々に収穫が開始見込まれます。

ペルー

22/23 クロップの収穫は、現時点で 62%程度まで進行。

高地産のコーヒーも収穫期を迎える中、天候懸念もなく、今のところ品質は良好。

一方、農民から輸出業者への売りは 46%にとどまっており、最近の NY 先物相場が軟調地合を背景に、農民は売り渋り傾向となっています。

ベトナム

22/23 クロップのロブスタの農民から輸出業者への売りは約 97%まで進行、農民は約 2%、輸出業者は約 1% 弱余りの玉（ギョク）を残すのみとなる中、需給逼迫感は日増しに高まるばかりです。

ベトナム国内の（精選前の）生豆の公示取引価格は、直近 8 月 29 日時点では 65,500VND(=2,787USD/MT)の高値圏にて引き続き推移しています。

サプライヤーは既契約の生豆の調達、履行に苦心しており、船積遅延、ノンデリのリスクにも留意していく必要があります。

23/24 クロップに関して、例年通りであれば、11 月頃から徐々に収穫開始となりますが、サプライヤーによっては、今年は例年より早く収穫が開始されるとの見方があります。

理由は、エルニーニョの影響を受け、気温が上昇傾向で推移すれば、コーヒーの実の結実、収穫が早まるのではと見方や、一部の地域では 23/24 クロップの開花が既に昨年 12 月に見られたことから、結実、収穫時期も今年 11 月以前に早まるのではと見方や、ロブスタ先物相場高の中で農民は早めに収穫を進め、換金を進めるとの見方、などが考えられるためです。

農民の間に、チェリーが完熟する前に収穫し、換金する動きが広がれば、未完熟豆が出回るリスクも想定しておく必要があります。

アフリカ

エチオピア

エチオピアでは同国北部エリアにあたるアムハラ州にて再び治安が悪化しており、8/4 より同州全土に緊急事態宣言が発令されています。

コーヒー生産地からは離れたエリアかつ輸出港であるジブチへ通ずる経路にも被っていな

い為、現状コーヒー産業への影響は確認されておらず、今後も基本的には影響は少ないとみられています。

但し、2020 年も北部での紛争が一挙に南部エリアにまでおよび情勢不安が全土に拡大した過去もある為、今後も最新の情報動向を注視していく必要があります。

コーヒー産地では 9-10 月頃よりニュークロップの収穫を控える中、輸出制度に関して政府より新たな発表がありました。

これまで輸出業者は輸出金額のうち 20%のみを最終的に外貨として調達でき、残りの外貨は政府に徴収され、現地通貨ブルへ換金されたうえで支給されていました。

しかし 8/11 にエチオピア中央銀行より制度の見直しが発表され、輸出業者は輸出の 40%を外貨で受領することが可能になりました。

エチオピア年度でいう 22/23 年度 (2022/7 月-2023/6 月) はコーヒーの輸出が前年比で約 20%減少しましたが、当制度変更により 輸出業者の輸出意欲向上が見込まれ、政府の設定する最低輸出価格次第ではあるが、ニュークロップでは輸出の回復が見込まれると予想されます。

8 月 19 日から 9 月 2 日の 2 週間 ブラジルへ視察に参らせて頂き、

S A V A S S I 事務所にて、鑑定士講習を受講して参りました。

皆様には、デリバリーなど大変ご迷惑おかけ致しました。

やはりブラジルは広大で、圧巻されました。

前述の通り、ウベランジャに到着した際には、異例の降雨があり、各農家も、開花懸念と乾燥不良など、突発的な業務に追われました。

弊社契約農園である

ホリゾンティーナ農園、サンタカタリーナ農園では

各農園主と、各 1 日をともに過ごし、今後のコーヒー生産などについて

ディスカッションを行いました。

また、新たな農園主とも時間を過ごし、まずはスポットにての取り扱いから始め

良質の商品であれば、契約も検討しようと考えております。

ブラジルの視察につきましては、改めてレポート作成し、報告させていただきます。

又、今月、27 日~30 日 東京ビッグサイトにて S C A J 2 0 2 3 が開催されます。

昨年は、出展側でしたが、今年は、一般参加予定です。

こちらを併せて、レポート作成したいと思いますので、楽しみにお待ちしております。